

# 薬学部

薬学 科

薬科学 科

医療栄養学 科

# 履修の手引と手続 (薬科学科)

## I 授業科目について

薬学部薬科学科における授業科目は、基本科目(講義・演習)、専門科目(講義・演習・実習)及び関連科目からなっている。授業科目のうち、基本科目は1年次に履修する。

そのほか教員志望のための教職関連科目がある。

## II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である(学則第15条参照)。

単位認定の評価はS・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。

## III 進級・履修について

1. 当該学年に配分されている必修科目(基本科目及び専門必修科目)の単位を修得しなければ進級できない。ただし、未修得必修科目が3科目以下の者の進級を認めることがある。なお、未修得必修科目は、下級学年の未修得必修科目をも加算されたものをいう。

進級の詳細については、「進級判定の対象となる科目」(第9表)の進級条件を参照のこと。

2. 中・長期海外留学を希望する者については、2年次から3年次への進級条件は、基本科目と専門科目について設けないことがある。また、3年次から4年次に進級するためには、3年次までに配当されている必修科目の未修得科目数を3科目以内とし、さらに専門選択科目については、9科目(18単位)を修得することとする。

3. 上位学年に配当されている必修科目、選択科目の履修を可能とする。ただし、4年次配当の必修科目は4年次に履修するものとする。また、薬科学実習A～Fは、原則として、配当学年次に履修するものとする。

4. 2年次までの所定の単位を極めて優れた成績をもって修得したと認められた者については、2年次から3年次への進級条件は、基本科目と専門科目について設けないことがある。

(留学した学生対象)

5. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

6. 進級判定の対象となる科目

第9表

進級	1年→2年	2年→3年	3年→4年
	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義 コミュニケーション基礎英語 A コミュニケーション基礎英語 B コミュニケーション基礎英語 C コミュニケーション基礎英語 D		
	演習 フレッシュマンセミナー（薬科学） A フレッシュマンセミナー（薬科学） B		
専門科目	講義 医薬品・食品・化粧品概論 化学 A 化学 B 基礎有機化学 有機化学 A 物理化学 A 生物学 A 生物学 B 生化学 A 微生物学 解剖学 生理学 A	有機化学 B 分析化学 機器分析学 生化学 B 天然資源学 薬剤学 化粧品・化粧品学 A 基礎薬理学 基礎栄養学 免疫学 機能性食品科学 A 基礎薬科学英語	医薬品・食品・化粧品製造論 生物統計学 薬理学 A 薬理学 B 病態学 A 薬物動態学
	演習 薬学数学演習		
	実習 薬科学実習 A（コンピュータ活用を含む） 薬科学実習 B	薬科学実習 C（コンピュータ活用を含む） 薬科学実習 D	薬科学実習 E 薬科学実習 F
進級条件	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目（必修）の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目（必修）の講義と演習の2年次までの未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目（必修）の講義と演習の3年次までの未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目（選択）の3年次までの講義と演習は、9科目以上(18単位)を修得のこと。 3) 専門科目の実習は全科目修得のこと

#### Ⅳ 薬科学専攻（大学院薬学研究科）の特例受験について

本学薬科学科の極めて成績等優秀な学生で、3年次終了までに、卒業可能科目数及び単位数をほぼ修得した者は、特別に城西大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程の入学試験の受験を認める場合がある。ただし、薬科学科の卒業を認定するものではない。

#### Ⅴ 卒業について

1. 卒業可能最低科目数及び単位数は次の表に示すとおりである。

第10表

系列		項目	科目数	単位数
基本科目			6	10
専門科目	必修		38	84
	選択		13以上	24
関連科目			3以上	6
計			60以上	124

#### Ⅵ 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

##### 1. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や、学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語の習得にあてられる。

- (1) 基本科目は、全て必修科目であるから必ず修得しなければならない。
- (2) 基本科目は1年次に履修するものとする。

## 学年配当表

[薬科学科]

第 11 表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低取得 単位数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
基 本 科 目	フレッシュマンセミナー（薬科学）A	①				10 単位	
	フレッシュマンセミナー（薬科学）B	①					
	コミュニケーション基礎英語 A	②					
	コミュニケーション基礎英語 B	②					
	コミュニケーション基礎英語 C	②					
	コミュニケーション基礎英語 D	②					

## 2. 専門科目

専門科目は、薬、食及び化粧品など人体への摂取、投与、接触を目的として開発・生産される化学物質に関する知識集約型産業分野において活躍する高い専門性を有する技術者を養成するために必要科目として配置されている。

総合薬科学分野Ⅰには、医療に関わる技術者としての素養を養い自覚を育てるための科目、基礎薬科学分野には医薬品を化学物質として理解するための、また、生体の仕組みの基礎を理解するための科目、生理・治療分野にはヒトと疾病との関連性を理解するための科目、医療薬科学分野には医薬品を理解し投与することに関わる知識・技術を理解するための科目、総合薬科学分野Ⅱは薬・食及び化粧品の開発・供給に関わる科目、を設置している。

卒業するために、専門必修科目は 38 科目（84 単位）を修得しなければならない。

専門選択科目については 13 科目以上（24 単位）を修得しなければならない。

（1）専門必修科目、及び専門選択科目の学年配当は第 12 表のとおりである。

第 12 表

年 次	必 修		選 択	
	科目数	単位数	科目数	単位数
1 年	15	28	3	3
2 年	14	28	10	19
3 年	8	16	23	44
4 年	1	12	6	12
1 年～4 年	0	0	3	6
2 年～4 年	0	0	4	6
計	38	84	49	90

学年配当表

[薬科学科]

第 13 表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年			
専門科目	総合薬科学分野 I	医薬品・食品・化粧品概論	①				必修科目 84 単位		
		基礎化学	1						
		基礎生物学	1						選択科目 24 単位 選択必修
		基礎物理学	1						
		薬学数学演習	①						
	基礎薬科学分野	化学 A	②						
		化学 B	②						
		生物学 A	②						
		生物学 B	②						
		物理化学 A	②						
		物理化学 B		2					
		微生物学	②						
		基礎有機化学	②						
		天然資源学		②					
		有機化学 A	②						
		有機化学 B		②					
		分析化学		②					
		機器分析学		②					
		生化学 A	②						
		生化学 B		②					
		分子生物学		2					
		公衆衛生学 A			2				
		免疫学		②					
		病原微生物学			2				
	有機化学 C		2						
	生薬学		2						
生物統計学				②					

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専門科目	基礎薬科学分野	薬科学実習A (コンピュータ活用を含む)	②					
		薬科学実習B	②					
		薬科学実習D		②				
		放射化学実習			1			
	生理・治療分野	解剖学	②					
		生理学 A	②					
		生理学 B		2				
		臨床薬理学				2		
		基礎薬理学		②				
		薬理学 A			②			
		薬理学 B			②			
		薬理学 C				2		
		基礎栄養学		②				
		栄養生理学		2				
		化粧品・化粧品学 A		②				
		化粧品・化粧品学 B			2			
		毒性学 A			2			
		毒性学 B			2			
		機能性食品科学 A		②				
		機能性食品科学 B			2			
		ハーブ論			2			
		臨床化学		2				
		臨床分析学			2			
		病理組織細胞学			2			
	臨床検査学			2				
	病態学 A			②				
	病態学 B			2				
	薬科学実習C (コンピュータ活用を含む)		②					
薬科学実習E			②					
薬膳・機能性食品科学実習			1					

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専門科目	医療薬科学分野	薬剤学		②				
		物理薬剤学		2				
		生物薬剤学			2			
		薬物動態学			②			
		製剤学			2			
		セルフメディケーション論			2			
		臨床心理学			2			
		栄養・薬学マネジメント論					2	
		漢方薬			2			
		天然物化学			2			
		薬科学実習F			②			
	総合薬科学分野Ⅱ	メイクアップ論		1				
		医薬品・食品・化粧品製造論			②			
		バイオインフォマティクス			2			
		医薬品開発論			2			
		薬事・食品衛生関連法規			2			
		公衆衛生学B					2	
		公衆衛生学C					2	
		医薬品・食品・化粧品マーケティング論			2			
		基礎薬科学英語		②				
		応用薬科学英語		2				
		実践薬科学英語					2	
		企業インターンシップⅠ			1			
		企業インターンシップⅡ			1			
		医薬品情報・マネジメント概論A			2			
		医薬品情報・マネジメント概論B			2			
		海外薬学英語研修Ⅰ		2				
		海外薬学英語研修Ⅱ		2				
		海外薬学英語研修Ⅲ		2				
		薬科学卒業研究					⑫	



### 3. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系，社会系，自然系）外国語科目，体育関係科目及び語学教育センター講座科目から構成されている。

#### 学年配当表

[薬科学科]

第 14 表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
関 連 科 目	倫理とは何か	2				関連科目  6 単位 選択必修	
	現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2					
	現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2					
	人と文化	2					
	社会学 A	2					
	心理学Ⅰ	2					
	近世の日本史Ⅰ	2					
	日本の文学Ⅰ	2					
	地域と風土	2					
	物理学 A	2					
	物理学 B	2					
	世界の中の日本 A	2					
	世界の中の日本 B	2					
	地域と大学	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とダイバーシティ（女性の働き方）	2					
	女性とキャリアデザイン（女性と企業）	2					
	自校史研究（建学の精神と大学の理念）	2					
	国際グローバル研修	2					
	海外研修Ⅰ	2					
海外研修Ⅱ	2						
海外研修Ⅲ	2						
海外研修Ⅳ	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目	Oral English I A	2					
	Oral English I B	2					
	資格英語 I A	2					
	資格英語 I B	2					
	留学英語 A	2					
	留学英語 B	2					
	English Communication I A	2					
	English Communication I B	2					
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語 II A		2				
	ドイツ語 II B		2				
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語 II A		2				
	中国語 II B		2				
	スペイン語 A	2					
	スペイン語 B	2					
	韓国語 I A	2					
	韓国語 I B	2					
	韓国語 II A		2				
	韓国語 II B		2				
	フランス語 I A	2					
	フランス語 I B	2					
フランス語 II A		2					
フランス語 II B		2					
ハンガリー語 A	2						
ハンガリー語 B	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目	ポーランド語A	2					
	ポーランド語B	2					
	マレー語A	2					
	マレー語B	2					
	健康スポーツⅠA	1					
	健康スポーツⅠB	1					
	健康スポーツⅡA	1					
	健康スポーツⅡB	1					
	地圏環境	2					
	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	1					
	地学実験(コンピュータ活用を含む)	1					
	情報科学(演習含む)		2				
	データサイエンス入門	2					
	データサイエンス入門と数理統計				2		
	機械学習とAI				2		
	データサイエンス特別講義Ⅰ				2		
	データサイエンス特別講義Ⅱ				2		
	応用AIプログラミング				2		
	社会科学におけるデータサイエンス				2		
	ゲーム理論とAI				2		
	定量的政策評価				2		
	金融データ分析				2		
	文化研究Ⅰ	1					
文化研究Ⅱ	1						

#### 4. 教職関連科目（自由科目）

教職関連科目は、教育職員免許状取得のための授業科目であり、学生の希望により選択履修できる。これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

詳細については、教育職員免許状取得のための課程の頁を参照すること。

#### 学年配当表

[薬科学科]

#### 第 15 表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数及び履修単位数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
教職 関 連 科 目	教育学概論 A	2					
	教職論	2					
	教育心理学	2					
	教育方法及び ICT 指導法	2					
	特別支援教育	2					
	教育史	2					
	道德教育の理論と指導法	2					
	生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2				
	教育学概論 B		2				
	教育課程論 （総合的な学習の時間の指導法を含む）		2				
	学校と図書館		2				
	ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2				
	スチューデント・インターンシップ I		1				
	スチューデント・インターンシップ II		1				
	特別活動論			2			
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	理科教育法 A			2			
	理科教育法 B			2			
	理科教育法 C			2			
	理科教育法 D			2			
	介護等体験演習（事前及び事後指導を含む）			2			
教職実践演習（中・高）				2			
教育実習 I（事前及び事後指導を含む）				3			
教育実習 II				2			

### 5. 副専攻関連科目（専門選択科目）

以下の科目はH & BC マネジメント副専攻（H & BCはHealth and Beauty Careの略）取得のための授業科目である。以下に示す2科目はH & BC マネジメント副専攻希望者には必修となる。

詳細については、副専攻取得のための課程の頁を参照すること。

#### 学年配当表

[薬科学科]

#### 第17表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
	医薬品情報・マネジメント概論A			2		
	医薬品情報・マネジメント概論B			2		

## Ⅶ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

\* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認めないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

## Ⅷ 正規の履修からはずれる場合

### 1. 再履修

過年度不合格となった科目を再度履修することをいう。原則として再履修クラスのある科目は再履修クラスで履修すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

### 2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外で受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。その場合必ず学部事務室に相談すること（原則として1年生は認めない）。

## IX 履修上の注意

### 1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は、全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において5分の4以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

### 2. 履修方法

上位学年に配当されている必修科目、選択科目の履修は可能であるが、基本的には当該学年に配当されている科目を履修する。ただし、4年次配当の必修科目は4年次に履修すること。

### 3. 履修科目の登録の上限

履修科目として登録できる単位数の上限は、1学年当たり、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目を合わせて49単位までとする。ただし、自由科目の単位は上限の49単位には含めない。留学を希望する学生については、上記に定められた単位数を超えて履修単位の登録を認める場合がある。

## X 試験について

### 1. 定期試験及び臨時試験

- (1) 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は原則として学期末又は学年末に行う。
- (2) いずれの授業科目も原則として授業時数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

### 2. 試験に関する注意

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始10分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後は、遅刻者の入室は認められない。ただし、特別の事由により遅刻した者は、試験開始後20分以内までは入室を認めることがある。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。
- (6) 受験者は、必ず学生証を机上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れるか、机の中にしまうこと。
- (8) 試験場では、一切物品の貸借は許されない。

(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)

- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 68 条により罰せられ、更にはその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験できない。
- (14) 事故のため受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、かつ学科目・担当者・クラス別に明記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書を、その他の場合は事故を証明する書類を添付して、早急に科目担当者及び学部事務室に提出すること。

### 3. 追 試 験

- (1) やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者は、当該授業科目担当教員の許可があれば追試験を受けることができる。(成績通知書にTの表示がある科目)
- (2) 追試験の受験を許可された者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。追試験の受験料は、1科目につき200円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 追試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受けることができる。
- (4) 追試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。

### 4. 再 試 験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目担当教員の許可があれば再試験を受けることができる。(成績通知書にFの表示がある科目)
- (2) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。  
再試験の受験料は、1科目につき1,000円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 再試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。



## 5. 論文試験（レポート）

論文提出によって試験に代えることがある。再試験もしくは追試験として評価する場合は上記のそれぞれの手続は必要である。

## XI 成績発表

1. 成績発表は、Web成績照会システムを用いて行う。開示期間中に指定 URL にアクセスし確認すること。成績の評価は、下記XII GPA についての「GP の基準」を参照のこと。
2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

## XII GPA について

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

### 1. GPA の意味

- (1) GPA の値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎の GPA と入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPA の値には、T評価、F評価およびZ評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

### 2. GPA の計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

### 「GPの基準」

成績評価（表示）	評価の基準（点）	合否	GP
S	100～90	合格	4
A	89～80	合格	3
B	79～70	合格	2
C	69～60	合格	1
F	59以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験（不合格）	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計（T評価、F評価、Z評価科目を含む）}}$$

（注）不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA計算式に算入されない。

（注）GPA計算式に算入されない科目もある。

### XII 試験における不正行為の懲戒について

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。

不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

### XV 薬学部薬科学科において取得が有利な主な資格

危険物取扱者（甲種） 放射線取扱主任者 毒物劇物取扱責任者 医薬情報担当者（MR） 健康食品管理士 登録販売者 バイオ技術者認定試験